

大阪大学 図書館報

Vol.39 No.3 (2006年 1月)

目次

図書館あれこれ	-----	1
懐徳堂文庫へのいざない	-----	3
教員著作寄贈図書	-----	5
お知らせ	-----	5
会議・日誌	-----	7

図書館あれこれ



柏木 隆雄

図書館と私は幼い時から縁があるようだ。家から20歩も行けば城跡に建てられた市立図書館があった。純和風の二階建てで、一階が開架式の書棚、二階が閲覧室。夏などは開けた窓から涼しい風が入り、お城の石垣と木々が美しい。父が早くに亡くなって、貧しかったこともある。七つ八つの子供のくせに玩具より本とばかり、公園の図書館（城跡は公園と呼ばれた）と小学校の図書館を遊び場とした。学校の図書館では児童名作、偉人伝の類、公園の図書館は、昔の全集もの、ちょっと大人びた本を借り出しては読みふけた。二宮尊徳やリンカーン、エディソンなどの知識は、大方その頃仕入れた以上に増えていない。いわゆる円本全集の新潮社

『世界文学全集』、河出書房の『日本小説大系』、『国民文学全集』は、中学生になって公園の図書館で判らぬままに読んだ記憶がある。

その『国民文学全集』に収録されていた中里介山の『大菩薩峠』は、「です」「ます」の口調も子供にはよかったとみえて、駒井能登守が遠洋航海しようとするあたりまで、とにかく面白く読み進んだ。ドストエフスキーの『罪と罰』も手塚治虫の漫画版の初出とほぼ同時期に読んで、ラスコーリニコフに多少感化されたような気がする。昭和30年代、手塚は名作を多く漫画化していて、『シラノ・ド・ベルジュラック』も「勧進帳」の名場面を中心とする『義経記』も胸躍らせて読み、それが原作への接近とな

った。それらの漫画は雑誌「少年」や「漫画王」などに掲載されるか、付録として付いたもので、同級生に歯医者の子で沢山買って貰っているのがいて、その家に行って読ませてもらったりしたものだ。

中学の頃から漱石を始めとして、個人全集を好んで読み始めた。図書館ですらりと揃いの意匠で並んでいたりすると、巻数を追って読みたくなる。すると漱石は『坊ちゃん』、『三四郎』と思っていたのが、読んだことのなかった作品や書簡が面白いのだ。漱石の次は芥川龍之介へ、という風に一人の作家のすべてを網羅した全集が、きわめて魅力的であることを発見したことは大きかった。単に作家についてだけではない。人でも物でも、一般的な評に囚われず、自分の目で確かめることが大切だと思い知らされた。

高校は工業化学科ながら、にきび面が集まると、図書館で見つけた本の話で盛り上がった。恋に悩む男がいて、読んだ小説の主人公を彼になぞらえて、粗筋を話してやると、興がって、それからよく小説の筋を語らされた。武者小路実篤の『友情』や『愛と死』などは大いに受けて、何度も喋った記憶がある。語ることによって、細かい点にまで考えが及び、思わぬ発見をすると同時にしっかりと内容が頭に残って一石二鳥の効果があった。

住友金属に就職。尼崎の中央研究所に配属された。ガスクロマトグラフィーを使ってのコークスの分析が一応の仕事で、終業後は中学、高校とやっていたバレーボールも続けたから、図書館とはすっかり縁遠くなった。梅田へ出ると旭屋でよく本を買い、新書版の『太宰治全集』（筑摩書房）を揃えて、夢中になって読んだ。この太宰読書と研究所の大学出の研究者からの大学進学勧めが、阪大文学部受験のきっかけとなったのは確かだ。その若い研究員の下宿が蛭池にあり、会社に内緒で受験前日からそこに泊めてもらった。彼は合格したら愛蔵する人文書院版『ランボー全集』をやる、と言ってくれていた。運良く合格。迷った挙げ句、若さのままに退社を決めた日、彼は「神の国は何に似たるか？」と芝居染みた調子で問いかけ、私も「一粒の芥子種のごとし」と答えた。「育てて樹となれ」と返した彼自身も太宰治の大ファンだったに違いない。

さて阪大に入って、念願の大学図書館を利用できるようになったのだけれど、母も亡くなり、兄弟たちに独力でやる、と大見得を切った手前、援助を仰ぐわけにも行かず、ひたすら家庭教師に走るようになって、図書館での読書など思いもよらない。それに附属図書館の規模が大きすぎて、なんとなく居心地が悪いような気がした。また図書カードを繰って必要な本を探す勉強家でなく、漫然と好みの本を読む方だったから、

広い閲覧室に熱心に勉強している人たちを見ると気後れさえする。だから読書はもっぱら石橋-梅田間の電車内となった。岩波の薄べらい本は行き電車だけで読み終えたから、大抵2冊携えて、ひたすら読んだ。岩波文庫の値段はの数で表わされ、1個40円だった。作家や作品に注目して買うのではない。本屋の棚で背の一つを見て買い、それが尽きると2つへと移るという案配。とても計画的ではなかった。それでも短い時間に根を詰めて読んだからか、案外記憶にとどまって、時にはヴェルレーヌの詩の一節も空で出てくる。

家庭教師で大阪市内に出るたび桜橋や千日前、上六の古本屋を覗いた。両手に重い本の束を抱えて刀根山寮まで上る坂の楽しかったこと。石橋の太田書店にも日参して、気むずかしげな親爺さんと懇意になった。その店に昭和10年版の芥川龍之介全集が並んでいたが、一冊欠けているため通常値よりもかなり安かった。ある日池田に出かけた時、一軒の古本屋を見かけて入ると、なんと！その欠本がある！が、慌ててはいけない。まず本屋を出て、太田書店に公衆電話。全集はまだ売れずに残っていた。買う、と言うと、欠けているがいいか、と念を押す。そこで少しためらう雰囲気。値引きされた。古本屋に取って返し、欠けていた一冊をゆうゆうと買う。もちろん全集中の端本など大した値打ちがない、と値切ることまではしなかったけれど、買い集めた古書にはそれぞれ思い出が一杯詰まっている。

大学院時代を含め、入学から結婚まで9年も住んだ寮生は珍しいのではないが。刀根山寮は昔の進駐米軍の将校宿舎として建てられた13棟、4年生はメイド部屋の個室、他は2人部屋だった。あれは院生の時だったろうか。4月初め、新入生に付き添った両親が私の部屋の傍を通る時、窓越しに「流石に阪大は大したものだ。寮にも図書館があるよ！」と驚く声を聞いたことがある。そんなに沢山あるわけではなかったが、狭い部屋に買い込んだ本で一杯になっている本棚がいくつか並んでいたの、勘違いしたのだろう。

就職した神戸女学院大学の図書館は昭和10年代に建築家ヴォーリスが建てた南欧風の建物で美しく、書架の並ぶ一階を上がると、中二階の閲覧室からバルコン越しに一階の本を選ぶ学生の姿がいかにも清楚に見えた。しばらくしてパリに留学し、世界で有数の蔵書量を誇る国立図書館やバルザック記念館の図書室にはよく通った。記念館はバルザックの旧居を利用したもので、その図書室は玄関から入って何室も通り、さらに階段を十数段降りた地下室みたいに思える所にあった。彼が借金取りを誤魔化すために裏通りに面してしつらえたものだ。そこはバル

ザック関係の著作が揃っており、革張りの大きな机を独り占めして、広い室内に1人か2人くらいの静けさの中で頁を繰るのはじつに楽しかった。

1983年から阪大文学部で働くようになり、すぐ横の附属図書館にも、以来いろいろお世話になっている。しかしパリでも国立図書館よりはバルザック記念館の図書室を鼻屑にしたよう

に、どうも大きな図書館は苦手で、つい我が家を小規模の図書館のようにして、家で好きな本を手取る感触を楽しんでしまう。附属図書館との関わりを話すつもりが、鷗外の「人は老いるとレトロスペクティブになる」という名言を裏付ける、埒もない思い出に紙数が尽きてしまった。肝心の話はまた次の機会にさせてもらうことにしよう。

(かしわざい・たかお 文学研究科長)

懐徳堂文庫へのいざない 新館貴重図書閲覧室の整備について



湯 浅 邦 弘

懐徳堂の歴史

大学の格式を測る物差しの一つは、その源流が何かということであろう。大阪大学は、適塾と懐徳堂という二つの偉大な源流を持つ総合大学である。

特に、懐徳堂は、今を去ること280年前に大坂町人によって設立された学問所であり、その歴史は古い。

享保9年(1724)、八代将軍吉宗の頃である。大坂の有力町人「五同志」は、三宅石庵という学者を招いて、今の淀屋橋の近くに学塾を開設した。その二年後の享保11年には、江戸幕府から公認され、正式に「大坂学問所」となった。

この学問所の特色は、何より、大坂の地に花開いた文化拠点であったということである。当時の江戸は将軍のお膝元、また京都は天皇の在所である。これに対して大坂は、自治都市堺の例に見られるとおり、町人を中心とした自由闊達な精神にあふれる町であった。陸路・海路とも交通の要衝にあたり、情報通信の拠点でもあった。

こうした風土を背景に、懐徳堂では、伝統的な漢学(朱子学)の倫理道徳を根幹としながらも、通説に束縛されることなく、斬新で先鋭な教育研究が行われた。第四代学主・中井竹山とその弟中井履軒の頃に黄金期を迎え、江戸の官学「昌平黌」にも匹敵する隆盛を誇ったと伝えられる。

また、その門下からは、富永仲基・山片蟠桃・草間直方といった近代的英知が輩出した。懐徳堂には商家の丁稚も学んだが、たんなる寺子屋的な初等教育の場ではなかったのである。

懐徳堂の復興と継承

この懐徳堂は、140年余の歴史を刻んだ後、江戸幕府の崩壊とともに閉校となった。幕末維新による政治的混乱、経済的破綻が大きな原因とされる。

しかしそれから約四十年の後、懐徳堂の復興を期待する機運が盛り上がった。懐徳堂記念会が設立され、大正5年(1916)には、学舎も再建された。現在の大阪商工会議所のある場所である。この再建された懐徳堂を「重建懐徳堂」といい、ここでは、多くの市民に安価な学費で講義を開放した。懐徳堂は、大阪の市民大学としての役割を果たしたのである。

昭和20年(1945)3月、重建懐徳堂の講堂は、大阪大空襲により焼失した。だが、鉄筋コンクリート造りの書庫・研究室棟に収蔵されていた貴重資料は戦災を免れ、戦後、一括して大阪大学に寄贈されることとなった。これが「懐徳堂文庫」の基幹部分である。



CGで制作した懐徳堂タペストリー

大阪大学では、文学部が中心となって資料整理と研究を進め、昭和51年（1976）には『懐徳堂文庫図書目録』が完成した。また、平成12年（2000）には、附属図書館に新館が増設され、それまで旧館書庫棟の隅に追いやられていた懐徳堂文庫は、新館の貴重図書室に総合移転することとなったのである。

懐徳堂アーカイブスの展開

移転を終えた懐徳堂文庫には、二つの宿題が残された。一つは、電子情報化である。つまり、データベースを作成して、貴重資料の情報を整備し、また、資料の鮮明な画像をインターネット上に公開するという仕事である。これは、幸いにも、平成13年の大阪大学創立70周年記念事業の一環として強力に推進され、貴重資料データベースと江戸時代の懐徳堂学舎CGが完成した。

また、平成16年度からは、文化庁の委嘱を受けて、懐徳堂資料の撮影が進められている。全国の美術館・博物館・資料館などと連携して、懐徳堂文庫の資料が全国公開されつつあるのである。

貴重図書閲覧室の整備

もう一つの課題は、貴重図書室・閲覧室の整備である。この内、今年度の成果として、閲覧室の整備を紹介したい。

新館6階の貴重図書室（懐徳堂文庫）の前に、資料を閲覧するためのスペースがある。「貴重図書閲覧室」と名付けられているが、新館オープン以来、この部屋はまったく殺風景な空間に過ぎなかった。確かに、資料を広げるための机は三台並んでいるが、学外の研究者や高校生などが見学に来て、懐徳堂文庫のすばらしさを紹介する仕掛けが何もなかったのである。また、机の上に広げることのできる書籍などはよいが、軸装されている書画などを吊す設備はなく、書画を閲覧する時には大変な苦労があった。

そこで、この閲覧室に新たな機能を四点追加した。一つは、天井にピクチャーレールを取り付け、資料を吊り下げることができるようにした。これにより、書画類の閲覧や撮影が容易になった。

第二は、閲覧室の壁面に、懐徳堂を紹介する大型パネル三枚とCGによって作成した江戸時代の懐徳堂学舎のタペストリーを設置した。これにより、学外からの見学者にも、懐徳堂の概要と雰囲気を感じてもらえることが可能となった。

第三は、検索端末の設置である。懐徳堂文庫を検索するためには、上記の『懐徳堂文庫図書

目録』があるが、これは昭和51年時点のもので、遺漏も多い。そこで、懐徳堂データベースをこの端末で検索できるようにした。最新情報を文庫の間近で確認することができるようになったのである。

第四は、レプリカの制作である。貴重資料の中には、二百年以上の時を経て劣化が進んでいるものもある。触れてもらっては困るが、触れてもらうことによってその資料の意義が初めて分かるというものもある。その代表的な資料が、中井履軒の天図である。これは、当時の宇宙観をドーナツ状の輪の組み合わせによって示した模型であり、天体の運行を示す輪を動かしてみることによって意味がある。そこで、この精密なレプリカを作成して、閲覧室に展示することとした。閲覧者は、この天図レプリカによって、懐徳堂の知の世界を体感することができるようになった。

このように、貴重図書閲覧室は、魅力ある空間として変貌を遂げた。インターネットとともに、この閲覧室が、懐徳堂文庫へのいざないの空間として大きな役割を果たしていくことが期待される。



貴重図書閲覧室

【参考URL】

- ・WEB 懐徳堂 <http://kaitokudo.jp/>
- ・懐徳堂記念会 <http://www.aianet.ne.jp/~kaitoku/>
- ・懐徳堂センター <http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitoku-c/>
- ・懐徳堂と中国古典の世界 <http://www.let.osaka-u.ac.jp/chutetsu/kaitoku/index.htm>

【参考資料】

- ・『懐徳堂の歴史を読む』（湯浅邦弘・竹田健二編著、大阪大学出版会、2005年）
- ・『懐徳堂事典』（湯浅邦弘編、大阪大学出版会、2001年）

（ゆあさ・くにひろ 文学研究科教授）

教員著作寄贈図書

(2005. 9~12)

本 館	
由本 陽子 (言、助教授)	複合動詞・派生動詞の意味と統語 ; モジュール形態論から見た日英語の動詞形成 / 由本陽子(ひつじ研究叢書 ; 言語編 ; 第40巻) 東京 : ひつじ書房, 2005
奥山 雅則 (基、教授)	Ferroelectric thin films : basic properties and device physics for memory applications / Masanori Okuyama, Yoshihiro Ishibashi (eds.). Berlin ; Tokyo : Springer , c2005 (Topics in applied physics ; v. 98)
谷口 勢津夫 (高等司法、教授)	租税法演習ノート:租税法を楽しむ21問 / 佐藤英明編著 ; 岡村忠夫[ほか]著 東京 : 弘文堂, 2005
生 命 科 学 分 館	
中川 八郎 (名誉教授)	子どもの脳を育てる栄養学 / 中川八郎, 葛西奈津子著 (学術選書 ; 002) 京都 : 京都大学学術出版会, 2005
森本 兼曩 (医、教授)	現代医学と社会 : 「医学概論」講義 / 駒沢伸泰編集 京都 : 京都大学学術出版会, 2005
吹 田 分 館	
松浦 虔士 (名誉教授)	Proceedings of the Fourth International Conference on New Energy Systems and Conversions : June 27-30, 1999, Osaka, Japan / edited by T. Ohta, M. Ishida and K. Matsuura. Osaka : Organization Committee of the 4th International Conference on New Energy Systems and Conversions, 1999
池谷 元伺 (名誉教授)	動物の地震予報 : みんなどうしたの? : 前兆現象の科学を学び、地震に備える 絵本 / いけやもとじ文 ; おかなみ絵. 大阪 : パレード ; 東京 : 星雲社 (発売), 2005
森藤 正人 (工、助手)	量子波のダイナミクス : ファインマン形式による量子力学 / 森藤正人著. 京都 : 吉岡書店, 2005 (本館にも寄贈)
坪村 宏 (名誉教授)	新物理化学 / 坪村宏著. 京都 : 化学同人, 1994.10-1994.11
産 業 科 学 研 究 所 図 書 室	
田畑 仁 (産、教授)	Ferroelectric thin films : basic properties and device physics for memory applications / Masanori Okuyama, Yoshihiro Ishibashi (eds.). Berlin ; Tokyo : Springer, c2005 (Topics in applied physics ; v.98) (吹田分館にも寄贈)

(敬称略、受領順)

お知らせ

「Scopus」の無料トライアル開始

附属図書館では、Elsevier 社の学術情報ナビゲーションデータベース「Scopus」のトライアルを始めました。学内からのみご利用いただけます。トライアル期間は、2006年3月31日までになります。ご利用は (URL = <http://www.scopus.com/>) へアクセスしてください。また、「Scopus」およびトライアルについての詳細は図書館ホームページ (URL = <http://www.library.osaka-u.ac.jp/index.html>) をご覧ください。

OUP (Oxford University Press) の電子ジャーナルが大幅に増加

OUPの発行する各分野の電子ジャーナル166誌が全学で利用できるようになりました。2005年に利用できたのは約50誌ですので、大幅に増加したことになります。

学生用図書新刊購入

昨年度実施のアンケートでも皆様からご要望の多かった新刊図書について、今年度は特別に予算措置がされました。現在、各館で順次新刊本を購入し、配架されていますので、どうぞご利用ください。

特別図書、高額参考図書の選定について

10月24日に開催された豊中地区図書選定小委員会において、以下の資料の購入を決定しました。

【人文社会系特別図書】	【高額参考図書】
<ul style="list-style-type: none">・「考古資料大観」全12巻・「婦人画報」DVD-ROM版 明治大正期・「石川一郎文書」マイクロフィルム (一部)・「Black Journals」 series 2 マイクロフィッシュ・「European Law Review」 1976-1982, 2001-2004	<ul style="list-style-type: none">・「Encyclopedia of language and linguistics」 2. ed. 14 Vols.・「司法省民事統計年報」マイクロフィルム版 38リール・「農商務省商工彙報」 全18巻 復刻版・「Encyclopedia of genetics, genomics, proteomics and bioinformatics」 8 vols.・「Encyclopedia of statistical sciences」 2. ed. 16 vols.・「International peacekeeping」 8 vols.・「朝鮮郷土大百科」全20巻

全学共通教育科目「情報探索入門」で、図書館が利用説明

昨年に引き続き、全学共通教育科目の「情報探索入門」のなかで3回にわたり図書館の活用法について説明を行ないました。

「EUI」関西・大学図書館相互利用協定書」に調印

9月22日に関西学院大学図書館において神戸大学、関西学院大学、大阪大学の大学図書館長によって「EUI」関西・大学図書館相互利用協定書の調印式が挙行されました。協定の内容は、この3大学の「EU研究修了証」プログラムに登録する学部生・大学院生および授業担当教員が所定の申請手続きを行えば3大学図書館の利用を可能にするというものです。

近畿イニシアティブ初任者研修

12月8日、9日の両日、関西学院大学大阪梅田キャンパスで、平成17年度大学図書館近畿イニシアティブ初任者研修がおこなわれました。38機関から70名の参加があり、大阪大学からは、4名が参加しました。

東京国立近代美術館「須田国太郎展」

京都国立近代美術館に引き続き、東京国立近代美術館で開催されている「須田国太郎展」に大阪大学所蔵の須田国太郎の能・狂言デッサン22件が出品されています。1月28日には、天野副館長の講演会も行なわれました。展覧会会期は、3月5日までとなります。今後は、4月8日より福島県立美術館に巡回展示予定です。

図書館利用者説明会を開催

	月 日	時 間	対 象	内 容	場 所	参加数
本館	9月27日	10:30～ 11:30	短期留学生	図書館利用ガイダンス	図書館ホール	44名
	11月25日	16:30～ 18:30	全学利用者	CrossFire講習会	図書館ホール	61名
	12月 8日	10:30～ 12:00 15:30～ 17:00	全学利用者	Scopus説明会	図書館ホール	計41名
生命科学分館	10月19日	13:30～ 14:30	日本語研修 コース研修生等	図書館の利用方法	生命科学分館 A Vホール	19名
	12月 7日	13:30～ 15:00	全学利用者	Scopus説明会	生命科学分館 A Vホール	35名
吹田分館	11月22日	16:30～ 18:30	全学利用者	CrossFire講習会	吹田分館 視聴覚ホール	146名
	12月 7日	15:30～ 17:30	全学利用者	Scopus説明会	吹田分館 視聴覚ホール	36名

学術情報リテラシー教育担当者研修

11月16日から18日の3日間、大阪大学附属図書館と国立情報学研究所の共催で、本館図書館ホールを会場として平成17年度学術情報リテラシー教育担当者研修が開催されました。参加者は西地区を中心とした大学図書館等の機関から52名、うち大阪大学からは2名が参加しました。

電子ジャーナル・コンソーシアム説明会を開催

9月21日に、日本医学図書館協会近畿地区会と日本薬学図書館協議会近畿・中国・四国地区協議会の共催で、生命科学分館A Vホールを会場として日本医学図書館協会・日本薬学図書館協議会向け電子ジャーナル・コンソーシアム説明会を開催しました。説明業者は16社で、各加盟館から34名の参加者がありました。

利用者教育におけるプレゼンテーションに関するシンポジウムを開催

11月17日に、日本医学図書館協会近畿地区会、日本薬学図書館協議会近畿・中国・四国地区協議会、近畿病院図書室協議会の共催で、生命科学分館A Vホールを会場としてシンポジウムを開催しました。「利用者教育におけるプレゼンテーションの実際」と題する早稲田大学図書館の仁上幸治氏の講演に、60名の参加者がありました。

会 議

電子図書館専門委員会

10. 6 (木) 15:30～17:00

1. 平成18年度電子ジャーナル経費について審議し、承認した。
2. 平成18年度及び19年度以降のデータベースサービスについて審議し、承認した。

図書館委員会

10. 14 (金) 10:00～11:10

1. 一般市民への図書の貸出について審議し、承認した。
2. 平成18年度電子ジャーナル分担方式案について審議し、承認した。
3. 本館図書の不用決定案について審議し、承認した。

1. 機関リポジトリ構築について審議し、承認した。
2. 今後のデータベースサービスについて審議し、承認した。
3. 平成18年度の電子ジャーナルサービスについて審議し、承認した。

日 誌

- | | | |
|-----------|---------------------------------------|-------------------|
| 17. 9. 7 | 図書館業務電算化委員会 | (本館) |
| 9. 21 | 医図協・薬図協向け電子ジャーナル・コンソーシアム説明会 | (生命科学分館) |
| 9. 22 | EUIJ関西・大学図書館相互利用協定書調印式 | (関西学院大学) |
| 9. 27 | 国立大学図書館協会近畿地区協会電子ジャーナル・タスク
フォース懇談会 | (京都大学) |
| 9. 29 | 国立七大学附属図書館長・部課長会議 | (京都大学) |
| 10. 4 | 第2回大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会 | (立命館大学) |
| 10. 5~6 | 国立大学図書館協会経営問題委員会実地調査 | (北陸先端科学技術大学院大学) |
| 10. 6 | 電子図書館専門委員会 | (本館) |
| 10. 14 | 図書館委員会 | (本館) |
| 10. 21 | NPO日本医学図書館協会評議員会 | (東京慈恵医科大学) |
| 10. 24 | 豊中地区図書選定小委員会 | (本館) |
| 10. 27 | 国立大学図書館協会理事会 | (北海道大学) |
| 11. 14 | 外国雑誌センター館幹事会 | (東京工業大学) |
| 11. 16~18 | 学術情報リテラシー教育担当者研修 | (本館) |
| 11. 17 | 近畿地区医・薬・病図系シンポジウム | (生命科学分館) |
| 11. 22 | 第3回大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会 | (関西学院大学) |
| 11. 25 | 国立大学図書館協会近畿地区協会事務連絡会 | (京都大学) |
| 12. 8~9 | 大学図書館近畿イニシアティブ初任者研修 | (関西学院大学大阪梅田キャンパス) |
| 12. 26 | デジタルコンテンツ委員会 | (生命科学分館) |